

ティーチング・ポートフォリオ

筑波学院大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科

中野 千秋



筑波学院大学

TSUKUBA GAKUIN UNIVERSITY

目次

教育の責任	1
1. 何を担当しているのか.....	1
2. 担当科目	2
教育の理念	3
1. 卒業後幸せな人生を過ごせる学生の育成	3
2. 各科目の目標.....	4
教育の方法	5
教育の成果 および 今後の目標.....	7
参考資料	7

教育の責任

1. 何を担当しているのか

私の2022年度の担当科目は下の「2. 担当科目」一覧の通りである。科目担当教員としての「教育の責任」は、全体のカリキュラム構成の中での各科目の位置づけに基づき、その狙いを明確に意識した授業を行うことにあると考える。

(1) ビジネスマネジメントコース科目

「経営戦略②」と「経営哲学」は、それぞれ2020年度カリキュラムと2021・2022年度カリキュラムの合同授業として開講されている。

「経営財務」と「財務諸表論」も、それぞれ2020年度カリキュラムと2021・2022年度カリキュラムの合同授業である。

「ビジネスマネジメント演習C1-②」と「ビジネスマネジメント演習C2-②」は、カリキュラム上は独立した科目であるが、「ビジネスマネジメント演習C2-②」のシラバスで「ビジネスマネジメント演習C1-②の履修を前提として授業を進めていく」旨を記し、両科目を通年履修することを学生たちに促している。

「経営管理論」は、私が2022年度後期から初めて担当する科目である。

以上、ビジネスマネジメントコースの科目においては、各科目の2年次生以上の学生向けの専門基礎科目として、それぞれの専門分野における基礎知識を学生たちにしっかり学んでもらい、彼らの知的関心を誘うことを担当教員の責任と考えている。

(2) 教養科目・ILAコース

「Social Sciences II」と「Social Sciences B」も、それぞれ2021年度カリキュラムと2022年度カリキュラムの合同授業である。また「Social Sciences III」と「Social Sciences C」も同様である。これらの科目は、主にILAコースの学生を対象とするものであるが、総合コースに在籍し英語に興味を持つ学生の履修も受け入れている。

ILAコース科目においては、学生たちに「英語“で”専門科目（当該科目では「経営学」）を学ぶ」ということを実体験してもらうことで、英語と専門知識の橋渡しを提供することが担当教員の責任と考えている。

(3) 発展科目

「卒業研究」では、大学4年間の学びの集大成として卒業論文を執筆してもらう。学生たちにとって初めての本格的な論文執筆作業に取り組むことになる。指導教員の役割は、学生たちが自分自身で納得できる卒業論文を完成できるよう助言・指導その他の支援をして行くことにあると考える。とりわけ、2022年度の履修学生8人は全て留学生であるため、母国語以外の言語で卒業論文を執筆するという難度の高い挑戦となる。したがって、より丁寧な卒論指導を行なっていく必要がある。

2. 担当科目

現在（2022年度）の担当科目とその概略は以下のとおりである。

科目名	対象 学年	受講 人数*	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づ け)
経営戦略②・経営哲学	2-4	99	講義	選択	ビジネスマネジメントコース
経営財務・財務諸表論	2-4	19	講義	選択	ビジネスマネジメントコース
ビジネスマネジメント演習 C1-②	2-4	35	講・演	選択	ビジネスマネジメントコース
Social Sciences II・Social Sciences B	1-4	4	講義	選択	教養科目・ILA コース
卒業研究	3-4	8	演習	選択	専門発展科目
経営管理論	3-4	10	講義	選択	ビジネスマネジメントコース
ビジネスマネジメント演習 C2-②	1-4	20	講・演	必修	ビジネスマネジメントコース
Social Sciences III・Social Sciences C	1-4	4	講義	選択	教養科目・ILA コース

※受講人数は 2022 年度の履修登録者数（実績）

教育の理念

1. 卒業後幸せな人生を過ごせる学生の育成

(1) 建学の精神：KVA＝知識・徳性・技術

私は、私立大学の存在意義は、建学の精神もしくは教育理念に基づく教育の実現にあると考えている。筑波学院大学の建学の精神は「Knowledge (K＝知識の啓発)・Virtue (V＝徳性の涵養)・Art (A＝技術の錬磨)を体得し、良き社会人・家庭人を育成すること」にあるとされている。

中でもとりわけ重視されているのが「V＝徳性の涵養」であり、私はこの理念に大いに共感する。豊かな知識、洗練された技術も、それを正しく使うことができなければ、かえって社会を害するものとなりかねない。自ら体得した知識・技術を、世のため人のために正しく使う判断を行なえる人材を育成することが何よりも重要と考える。また、学生たちには、一定のレベルの知識・徳性・技術を体得するというよりも、その「体得の仕方」を学んでもらいたいと思っている。「釣った魚を与えるのではなく、魚の釣り方を学んでもらう」という考え方である。

こうした建学の理念を実現すべく、カリキュラムや課外活動の中で一致協力して具体的に展開していくことが、その大学に所属する教職員の果たすべき役割と考える。

(2) 大学生が身につけるべき素養：自分の頭で考え実行する力

私は、大学教育の意義を、学生たちが「自分の頭で考え、実行する力」を身につけることだと考えている。現実の社会や身の回りに存在するさまざまな問題を発見し、それに関する事実情報を誠実に確認し、その事実情報を総合していくことで問題の解決策を提案・実行することができる。さらに、その結果を真摯に受けとめ、反省・改善していく。そうした論理的思考様式と実行力を養うことにこそ、大学で学ぶ意義がある。

そうした力を身につけることで、学生たちが社会に出てから直面するさまざまな問題について、自ら答えを導き出していくことができると考える。現実の社会において生じる問題に「正解」というものは無い。「正解」は自ら作り出すものと考えべきである。われわれ教職員の役割は、学生たちが受験勉強に典型的に見られる「正解探し」のメンタリティを脱し、「自らの頭で考え実行する力」を体得できるよう導き支援していくことにあると考える。

(3) 個性を生かす教育

上の(1)と(2)で「筑波学院大学という大学で、どのような人材を育てたいのか」について、私なりの思いを記した。しかし、具体的な教育現場では、どんな学生にも通用する万能薬的教育方法というものは存在しない。同じことを伝えるに際しても、一人ひとりの学生の性格・価値観・その時々状況などによって異なる方法を用いるべき、と考える。

幸いにも小規模大学である本学では、一人ひとりの学生の顔が見え、その人格を尊重する教育をしやすい環境にある。マンモス大学では限界がある「個性を生かす教育」ができるチャンスが大きいのである。教職員の価値観や考え方を学生に押し付けるのではなく、一人ひとりの学生に寄り添い、学生目線で共に考え、喜びや悩みを共有し、彼らの個性を生かす。そして、一人ひとりの学生の将来の幸せを願う。そうした心を持って、学生たちに向き合っていきたいと思う。

2. 各科目の目標

(1) 「経営戦略②」 (2020 カリ) および「経営哲学」 (2021・2022 カリ)

企業経営もしくは経営戦略における経営理念の重要性を、理性・感性の両面で得心させることを狙いとしている。経営理念の重要性を知的に理解するだけでなく、実際の事例を学んで「心で感じることに重きを置いている。

(2) 「経営財務」 (2020 カリ) および「財務諸表論」 (2021・2022 カリ)

財務諸表の基本的な仕組みと、経営分析の基本をしっかりと理解した上で、実際の企業の財務諸表を読み解くトレーニングを行うことを狙いとしている。

(3) 「ビジネスマネジメント演習 C1-②」 (2022 年度前期) および「ビジネスマネジメント演習 C2-②」 (2022 年度後期)

経営学の主要理論と各理論に適切な事例研究をセットで提供することにより、経営の諸理論の現実的な適用方法の仕方を学ぶことを狙いとしている。

(4) 「経営管理論」 (2022 年度後期開講予定)

管理と組織の基礎理論を学んだ上で、組織における個人の行動、組織における集団の管理、全体としての組織管理という3つの局面における「自らの考えや行動」を想定・考察することを通じて、学生たちが徹底的に「自分自身と向き合う」トレーニングを行なう。

(5) 「Social Sciences II」 および「Social Sciences B」 (2022 年前期開講) と
「Social Sciences III」 および「Social Sciences C」 (2022 年後期開講予定)

世界的に定評のあるマネジメントのテキスト (英語原書) を教材に用い、前期・後期を通じて英書テキスト1冊を読破することを目標とする (ちなみに前期は全14章中の7章を読み終えた)。英書テキストを用いることで、英語の経営用語および概念を、日本語でも正しく理解できるようになることを狙いとしている。

(5) 「卒業研究」

大学4年間の学びの集大成として「自分自身で納得できる卒業論文を完成すること」を目標に論文指導を行なっていく。最終的には、留学生であるゼミ生が、母国語ではない日本語で卒業論文を完成したことに誇りを感じてもらいたいと思っている。

教育の方法

(1) 「経営戦略②」 (2020 カリ) と「経営哲学」 (2021・2022 カリ)

本科目では、企業経営もしくは経営戦略における経営理念の重要性を、知的に理解するだけでなく、「心で感じること」に重きを置いている。そのため、学生たちの感性・感情に訴えかける方法として、DVD、テレビ番組、その他の動画・画像などを多用した。それによって学生たちは、第2部「企業不祥事」では、企業の不正行為に対する憤りや被害者への憐憫の情、第3部「大企業の経営理念」および第4部「中小企業の経営理念」では優良企業の経営者や経営理念に関する感動・喜び・共感などを共有する。毎回課題として提出させた感想文を見ると、そうした自分の心の動きと向き合って、自分自身の生き方について深く考えるようになった者もいた。

(2) 「経営財務」 (2020 カリ) 「財務諸表論」 (2021・2022 カリ)

本科目は、財務諸表の基本的な仕組み、および経営分析の基本を理解した上で、実際の企業の財務諸表を読み解くトレーニングを行うことを狙いとしている。

講義では、基本的には教科書を用いて説明していくが、学生の理解を定着させるため、中野自作のごく単純な財務諸表や、穴空き式（虫食い式）の決算書などを用いて演習させるなどして、財務諸表の基本的な仕組みを何度も反復説明した。

また、財務三表の仕組み、経営分析の基礎に関する学生の理解度を把握・評価するため、中間テストを2回実施した。その結果、学生たちの理解度が一定のレベルに達していることが確認できたので、学期後半には、教科書に掲載されている企業の決算書の事例、および中野が準備した実際の企業の財務諸表を用いて、決算書から読み取れる企業経営の実態について議論した。

期末試験では、「財務諸表の読み方」「経営分析の基本」「実際の企業決算書を読み解く」という大きく3つの分野で、学生の理解度を確認した。

(3) 「ビジネスマネジメント演習 C1-②」 (2022 年度前期) 「ビジネスマネジメント演習 C2-②」 (2022 年度後期)

経営学の主要理論と各理論に適切な事例研究をセットで提供することにより、経営の諸理論の現実的な適用方法の仕方を学ぶことを狙いとしている。授業運営の方法としては、教科書の1章を2回に分けて、7サイクル回していくという進め方をした。

演習科目であることを念頭に、各章についての1回目では、事前に予習をして来たことを前提に、当該章の理論と事例分析のポイントを指示し、それに基づいてグループ学習。翌週までにグループ内で各メンバーが担当した部分を統合したグループプレゼメをパワーポイント作成し、中野に提出。2回目の授業で全5グループが発表。グループメンバーの全員が必ず発表することを義務づけた。全グループの発表を済ませた上で、中野による講評と補足説明を行ない、該当章の要点を再確認した。

これにより、教科書の内容理解、グループディスカッション、各自担当部分の要点整理、発表用のパワーポイント資料作成、プレゼンテーション等の能力などの面でのトレーニングとした。

(4) 「経営管理論」 (2022 年度後期開講予定)

管理と組織の基礎理論を学んだ上で、組織における個人の行動、組織における集団の管理、全体としての組織管理という3つの局面における「自らの考えや行動」を想定することを通じて、学生たちが徹底的に「自分自身と向き合う」トレーニングを行なう予定。

学期序盤の「管理と組織の基礎理論」(ガイダンスも含めて5回)については、主に講義。学期中盤の「組織における個人の行動」(4回)および「組織における集団の管理」(3回)については、さまざまな手法を用いて演習を行なうことを通じて、学生が自分自身と向き合う体験をする。学期終盤の「全体としての組織管理」(3回)は主に理論と合わせて具体的な事例を紹介する講義が中心となる。

(5) 「Social Sciences II」「Social Sciences B」(2022 年前期開講)

および「Social Sciences III」「Social Sciences C」(2022 年後期開講予定)

世界的に定評のあるマネジメントのテキスト(英語原書)を教材に用い、前期・後期を通じて英書テキスト1冊を読破することを目標とする(ちなみに前期は全14章中の7章を読み終えた)。英書テキストを用いることで、英語の経営用語および概念を、日本語でも正しく理解できるようになることを狙いとしている。毎回の授業は次の4つのメニューで運営している。

- ① 単語テスト(5分程度) : 前週に学んだ範囲から重要な経営用語(英語)50個程度のリストを配布しておき、すべて覚えてくるよう指示。当日の授業の冒頭で、その中から5つの単語を出題し、単語テストを行なう。
- ② 学生のプレゼンテーション(10分程度×4人) : 当日の授業で学ぶ章(2回の授業で1章を読み終えるペースで運用)について、前週に学生の分担を決めておき、学生は自分の担当部分について日本語で発表レジメを作成の上、当日ほかの学生にしっかり教科書の内容を伝えることができるように発表する。
- ③ 講義(30分程度) : 学生の発表だけでは教科書の内容を十分に理解できなかつたり、経営用語の訳し方に不備があつたりすることが多いので、当日の範囲について中野が内容確認および補足の講義を行なう。
- ④ 翻訳テスト(10分程度) : 当日学んだ範囲の中から、5~6行程度の英語文章を抜き取って来たものを出題し、授業内で学生に翻訳させる。当日の授業(学生の発表および中野の補足講義)をしっかり聴いておくと、翻訳する上で大きな助けとなる。

(5) 「卒業研究」

大学4年間の学びの集大成として「自分自身で納得できる卒業論文を完成すること」を目標に論文指導を行なっていく。1学期には、「研究計画」として各自に仮テーマを設定し、それにふさわしい研究方法および分析枠組みを考えた上で、各自の卒論の概要を固め、9月の中間発表に向けた準備を行なう。2学期からは、個別指導も含めて、各自の進捗状況に合わせて卒論執筆指導を行なっていく。

教育の成果 および 今後の目標

詳細は「授業改善報告書」を参照。

参考資料